

令和6年度第1回青森市民図書館協議会会議概要

- 1 日時 令和7年2月13日(木) 14時00分～15時30分
- 2 場所 青森市民図書館8階会議室2
- 3 出席委員 相馬克典 会長、長尾亜希子 委員、笠井敦司 委員、伊藤理子 委員、鳴海一成 委員、沼田久美 委員、中園裕 委員、手塚理香子 委員、稲見宗久 委員、安保静子 委員、(10名)
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局出席職員 館長 村上泰子、室長 工藤大輔、主幹 西田紀子、主幹 對馬智明、主幹 成田恵悦
- 6 傍聴者 なし
- 7 次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 報告事項 ア 令和7年度の青森市民図書館運営について
イ 青森市教育振興基本計画並びに青森市障がい者総合プランについて
 - (4) その他
 - (5) 閉会

8 主な質疑応答、意見等

《議長》

事務局から、6年度の市民図書館の利用・市民図書館が行っている事業について説明がありました。ご質疑・ご意見はございますか。

《委員》

- ・読み聞かせ講習会について、19の方が修了したとのことであるが、養成をした後の人材を他団体や地域に派遣する等の活動は行っているのか。

《事務局》

- ・そのような形で活動している。当該事業が地域の活動に貢献していると考えている。

《委員》

- ・令和6年度の貸出冊数と入館者数の減少が気になる。
世論調査で一冊も読まない人の割合が6割になったとニュースになったが、それも影響しているのではないか。

《事務局》

- ・入館者数はほぼ横ばい。貸出冊数については微減であり、今年の大雪の影響で手荷物を少なくするため、借りる数を抑える利用者もいたとの報告も上がってきている。
コロナ期間と比較し、入館者は戻ってきているという実感があるが、それをどう貸出冊数に結び付けるか様々な取組を行っている。

《委員》

- ・読み聞かせボランティアについて、人材確保・後継者育成が問題になっている。
市民図書館による養成及び活動の場に繋げる取組は重要と考える。
- ・読み聞かせ講習会について、養成講座が平日中心のため、興味はあるが仕事があり中々参加できないといった声がある。
- ・地元書店との連携事業について、近年、従来のような大型書店が減少している一方、個人で古本屋や個人販売を行う経営者が増えており。八戸市・弘前市では比較的若手が経営している。
十和田市では仕事終わりでも行けるような、午後3時から9時くらいに営業している書店があり、大人世代に好評である。
上記のような書店は個人経営であることから、経営基盤の弱さ等が問題となる。
図書館が直接経営を支えるといったことは難しいと思うが、図書館司書が地域書店と情報ネットワークを形成する等の形で支えていって欲しい。
- ・廃棄図書の無償譲渡について、リサイクルだけではなくリユースといった形がすごくいいと思っている。希望する小・中学校や児童館、一般の方に提供しているが、一年での除籍数やどのようなジャンルを提供しているのか教えていただきたい。

《事務局》

- ・除籍数について昨年度は6,000～7,000冊ほど。過去には1万、2万冊の時もあった。
除籍に際しては特定の分野ではなく貸出できるかどうか判断している。
ただ、利用者から無償譲渡に絵本等あればよいといった声も上がっているため、バランスを見ながら対応していきたいと考えている。

《委員》

- ・無償譲渡について、学校現場で好評だと話を聞いている。読書喚起に効果的と思われるので、今年度の反省を踏まえ、来年度以降も継続して欲しい。

《議長》

事務局から、青森市教育振興基本計画並びに青森市障がい者総合プランについて説明がありました。ご質疑・ご意見はございますか。

《委員》

- ・点字の図書があるが、利用者は図書館まではどのように来ているのか。繰り返し利用しているのか。

《事務局》

- ・ご家族やボランティア等サポートする方と一緒においでになる方が多い。郵送サービスによる貸出を利用されている方々もいる。

《委員》

- ・点字の本を作るボランティアがあると聞いたことがある。市民図書館が中心にやっているのか。また、点字を作成するボランティアの養成を行っているか。

《事務局》

- ・青森市民図書館ではライブラリーフレンズというボランティアの方を毎年募集しており、図書館利用者サービス部会として、触る絵本の作成、対面朗読サービス等の活動をしている。
現在、市民図書館では点字の作成をしていないが、青森県視覚障害者情報センターにおいて点字の作成の講習会や点字の本・録音した本の貸出が行われている。
当該センターと利用する本を貸借する等、市民図書館単体でできないことを協力しながら活動している。

《委員》

- ・付き添いの方がいない場合でも来館者へのサービス等があるのか。

《事務局》

- ・点字版広報あおもりに、来館 10 日前までに連絡いただければ 7 階にある対面朗読コーナーにおいて対応可能と掲載している。

《委員》

- ・基本方針の理念でも郷土の歴史と文化を受け継ぐとある。
県においても取組を行っているが、どうしても細かい地域のところに行き届かないと思われるので、市町村がしっかり歴史と文化を根付かせてくれた方がいいと考えている。
これまで歴史文化は政治経済に比べると意識が向かないと感じていたが、歴史文化の重要性が広まってきている。
地道に活動されている方々もおり、ようやく歴史・文化の重要性が議員、自治体幹部職員等も理解しつつあるので、このチャンスを生かしてほしい。
- ・学校現場でも地域の良いところを学んで地域に貢献する活動するといった取組を重点的に行っている。
現在の過疎化の時代において、地域に残ろうとする気持ちを育てていくためにも、地域の文化・歴史を知らせるような活動が重要であると感じている。

《議長》

その他、ご質疑・ご意見はございますか。

《委員》

- ・学校現場の地域に対する興味関心が歴史文化に向いているとあったが、青森中央高校では探求学習で地域の課題解決の一環で高校生地域ねぶた協力隊としてねぶた運営への協力活動を行っている。
その参加を通じ、高齢化や人手不足を実感し、その経緯や歴史に興味を持ち、資料等で調べたいと考える子が増えている。
その際、昔の広報や過去の資料は市の図書館が収集しやすいと思うので、協力していただきたい。
- ・青森中央高校では学校として読み聞かせ隊を結成し、地区の幼稚園や児童館等で活動をしている。高校生も読み聞かせの講習会に興味を持っているので、生徒もプロの指導を受けて地域に貢献できればよいと考えている。これを機会に、青森中央高校の読み聞かせ隊の活動を周知するとともに、協力していただきたいと考えている。

- ・新城中学校はボランティア活動に力を入れており、地域のことをもっと知らなければ本当に地域の役に立つようなことができないのではないかと考えるようになった。地域について知るためには、図書館・歴史編纂の協力が必要であることから、連携していればと考えている。
- ・子供の自己有用感・自己肯定感を高め、意欲を持てるような教育活動の一環として地域ボランティアに力を入れている。その地域を調べる土台に市民図書館がなればよいと考える。
- ・青森市読書団体連絡会は、青森市民図書館としっかりタッグを組んで、風のはこんだはなし会学校編と地区編、市内の市民センターでのおはなし会など協力してやってきている。基本計画の中にも子供の読書活動の推進がしっかりと入っており、今後とも協力して進めていければと考えている。
- ・図書館で読み聞かせボランティアをしている。当初 30 名ほどのボランティアの参加人数が、高齢化や若い方は仕事で参加できない等により少なくなってきたので、ボランティアの募集を年 1 回ではなく、年度の途中からでも入会できるようになればよいと考えている。
- ・地理的に図書館の利用のしやすさに差がある。より遠い地域の方々が利用しやすいような取組を進めて欲しい。

《事務局》

本日いただいたご意見等については、今後の参考にさせていただきます。
ありがとうございました。